

## 2. 速度の抑制

### 2-1 単路部

#### ➤ ハンプ・スムーズ歩道

課題	・ 単路部での車両の通行速度が高い。
対策内容	車両の通行速度が高い箇所において、単路部にハンプ（凸部）を設置する。
効果	過度な速度で車両が通過した際にハンプによってドライバーへ不快感を与えることにより、ハンプ手前で速度の抑制が図られ、交差点部での速度抑制も期待される。また、連続設置することで区間全体の速度抑制が可能である。

#### 車両の通行速度の高い生活道路にハンプを設置（沖縄県浦添市<sup>うらそえ</sup>）

##### ○対策後



・ ハンプの設置

#### 車両の通行速度の高い生活道路に路側帯を含めたハンプを設置（佐賀県佐賀市<sup>さが</sup>）

##### ○対策前



##### ○対策後



・ 自転車の通行に配慮し、路側帯を含めたハンプを設置

歩道のない生活道路にハンプを設置（広島県福山市<sup>ふくやま</sup>）

○対策後



・ 車道幅に合わせてハンプを設置

車両の通行速度の高い車線にハンプを試験的に設置（鹿児島県鹿児島市<sup>かごしま</sup>）

○実証実験中



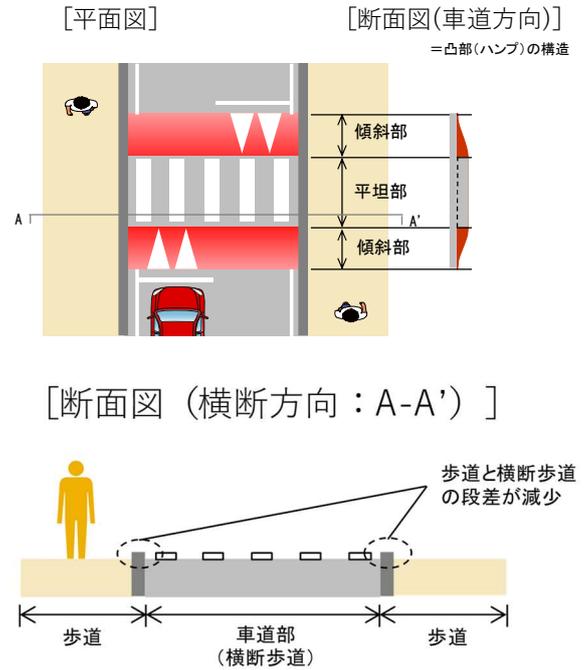
・ 実証実験として2車線のうち1車線にハンプを設置

車両の通行速度の高い生活道路にスムーズ横断歩道を設置

○対策後



写真：埼玉大学交通・計画グループ提供



- ・車道にはハンプ構造とすることで自動車の通行速度の低減を図るとともに、歩道と横断歩道の段差が小さくなり、歩道と横断歩道の通行がスムーズとなる。(スムーズ横断歩道)